へ13
2132
79

2132
79

樂藤文庫

鄉食園文庫

自序

奥兎印

書樣の妙を識して先ず
記す所かくの題したる
い早子八十余諸一序なり。
此清稿の表紙束

年ゞ多好て紙をとゞして
掌一を遺せし孫よ。其
會同の座ゆ嬉嘩驚る
郊の皮のをとゝ疾安の家溢
る小妖雛妓を賞る御

客を呼び寄て茶
ぎりを出ハ世の常也。こ
おのく紙花の箱を書し。
手のある人全盛を書を抓也。
新生子呼の手紙を書
寿二

せうく是子手の花を畫也。
則浪花屋春遊作命ト云。

十偏舎丁九頭

敬直 平安

一九
ふくびん
乃ら
のあんの

うゝよ
初
雀

總目

第一　金の威光ふさのやね憂苑ハ
義理と情のやうに見

第二　ちつふこの〳〵むこ吉の新ぶハ
虛こと〳〵実情のやうに枕

第三　もぐ〳〵かくて引よこのれぬハ
俄〳〵そば切乃二番乃

浦籍遊治郎

發端

かつらの〳〵新書京。五町すも細工紀へ。
宝丹〳〵仰よ。平家るく市中よひぐきて。
人うる初買の爰と結ぶん〳〵と形〳〵。さうれば
つ扶ニ書元廓の浜斗。富貴源ぐるも
し〳〵紀〳〵伊の町の元の人も見返り乃
抑こ〳〵とこ元更て。五〳〵素も素のわき

とうざる初乃中の優婆夷まいる釈迦ぶ
きの。釈化もうられて。内義法衆の理屋と
ひ孫ゝ老孔子わゝ老し優丹ゝも遊ひて。
悟乃無変の。云日けふまごゝくび出形
寺の仏編ゝ。ろふ和ゝうふゝても級目乃
約束ゆくすゝ。ひゝのあれべ文盲唱
乃ゝ拵釈ゝ系日ゝ。ながゝ。言葉のまゝ
こゝ。ゝゝくゝ。ろ。ゝ。ゝ。ゝ

まぜ。肉は八幡よひ〜ことい〜ふぢ。こめ米黒きとろ〜〜〜〜〜〜も。外は八幡の外どころと拵てあ〜〜牛蒡乳。汁は山ぎの葉とろ〜ひ。こめ八ゐのきの牛とかひ。内の絡義こ中宮る紙。ぎ。ぎ。ぎ

いくも。おもて。むきへ。ちう。よ。ち。て。く。船。そ。へ。
殘雪孫繡とまつ。ひ。月。よ。ち。な。ま。ま。ま。ま。ま。
そ。て。人。ま。あ。そ。ぐ。ひ。そ。ま。ま。ま。ま。ま。
拾。び。拾。ま。ま。て。ま。解。ま。の。ぐ。く。拾。と。拾。
船。あ。ぐ。と。そ。て。ま。船。の。ぐ。く。ま。ま。け。武。へ。
み。ま。や。の。ま。と。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
と。ま。て。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
と。ま。て。い。ぐ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

級ときそさんまの下のものと岩ろあく。
又のてるゆと。孤ろそ見れば岩つる孫
のゆ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ろ流ま形ろ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ら孫ん。て。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
の。ま。い。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

第一章

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまぜんどのこゝぢやあるやア仁さんがのつを
砕ひなれてゞこゝ〳〵ゞゆへむりまゝゞるこゝろ
なれしこのでおぜんをぴよろ〳〵ろうして
いるこゝゞおやへさんがおぢなれちやなん
とうおりひなんせしそれゞ後後さんが
まつておぢなんをこゝゞまつちこへ
おぢなん〳〵いろ〳〵まいてもなんの
ろのしりてまいていなんをこゝゞゞこゝゞや

てゞ〳〵ろうしこゝゞやアおぜんせんそなる
〳〵あんのゞゆゞおわへさんがおぢなれてゞのそ
やらせ〳〵おつせれこゝろんでざんをこゝゞ後
きねさんせでゞゞのうゞろちがゞゞけでも
あるよゞゞゞひなれてゞろを後こゝつて。
こゝゞゆへこゝろしなん〳〵ろんでざんを
こゝゞゞこゝゞやアりゞ〳〵あんるゞゞへゞんのゞゞ
やこゝゞアおぜんせんを 返 ソりやアなるわゞ

下駄よ毛の強(きこう)のこと〳〵。人よ
りれるようでも強くが。それでもつゞ弱りして
あくもつゝ〳〵ぐ〳〵おりて。きこうのわう〳〵
なぐさこうけこうぢ〳〵わるる。唐かんゆれし
ておこんなれ。ヨろちゝゃあんるらい気な
ゑ人いきこいでおざんを。そしておゝ〳〵さんの
お出なんを第(めく)わすゝゃ。ゑゝ〳〵さんが例(たぐ)る
わなんして。ゆゝもちろもちろそわなんとト

もんもちろねふうきんと
せうこよゝうるづよらふ。唐土。あゝ長さんぴゝらかんる
いもちわてあげておらんなれ。その時ゃおゝく
ろんぐ。おこうなれさだろうで。二階半(くんだく)へ
てゑんよてく。ロろくいれこうまゃゃおさん
せん。あやぎねさんなんざゃ。それゝ〳〵ちゝえ
新(しん)とゝて。おいゝんゃヨろちゝるすで。ものゝも
云なゝへせんゑどる。後(ちく)とおゝちなれこうけ
板 十二 うそとうくゝぜゆゝべもあやがうしおい

らんぷをつけようとするのと 屋 ヤ
そりゃ　そのちごでおざんさぴらんい 後 ちご
ともちなれされどとるもうりらを あや
こも　ねへ　ゑ　ゑでおざんさとりのとそれるる 後
ぎねさんのをうう。あやまりるれて。 ぐく
ヨけをあつせをうう。それで今までのを
つれをつてあいをとと。 ぬるう。おめへ
さんよもおをる。ちゃいさるる。りかく

あのうとをいつておうんなんまるる。をうぐろ
ち。ぴ。ぴ。ぬでなるいせんよ。ちもうでぐ
くまをいさくさ　ぐいよえまぎ
ねへんよよへ　扱　こを　そのつりで。墓をひうえん
ねへ　ヒ　おねへさんのぴおをきるりのぐぴんく
ゆうりをトちいあ。ちぐぐいうそちやとを
いどかきでるちいさるるをぐちやうえとゼス　扱
ドル。ちゃんぐぴりを　ちをそまれの森ろ。おう。を又
ちう。
薩摩ぐんぐう。おりりを　屋　ヤ　ちぶ。れを
をる　扱　をれる　沖　ようこう　子へぐれを　ヒ　ろ　を

お出なんさるさ 反 老夫婦でおざるさうな。お
あがんなせへ。そりやいかやうてうんな 反 そよ
やいしやう。トうけごてれ。内アうらうらがおるる。竹里
へやめちやうバ。夫のつぎてとうろうねと
ひふうてつまとうろうびやうぶの
うげうらうらうもどうろうん
ひとう
愛ざんさとね 反 今そよいうややうさが清水
さうんいぐわーと 竹 今ようこそお出なんさる
反 市さうさんさんおいろうなし 竹 ろんまう孫
トきうろうはひぐいよりまうとうて。清水 反 コレハ
百ばくちぶしとうるそ伽うさやゆ

市くらうざうね。トらうろうとそいてうおしとまでうヤ 竹
子ハひさーいめんぐ。又毎ッこまろ市用ろろ
ハ廿八日 反 こりうろいきろいろづつるぐ 反 サアヌ
清水さんがちぐまるぐ 反 ゆどるへぐふぐ
流 コリヤアあどぐそ。コレ竹里さんおめへもッのん
で同さまるーなるへぐまろ雨ろでるあるとは
うるさーのちやで。今ひーの死。ろきろしとねへ
同つるぐ 竹 そのもいもぐでおざういをやーまろ

こんさいおらんかんぷゆべも流行さんぐる。
いんこりきさまでいぎりとせかれさるる 図
おいらもいぎりとかされさるる 仵 おめく
さんぐるアそれがおらまるこざんまぐるこし
らアうまりいせんよ 流 ひくぎりあいこと
いのせ反歯でこそあれおいらがよるい
男がありのこそれぐらいつぐもくもも
なぐるゆやアこるりまそろ 仵 さ 留いまるのう

おきまのつるる 図 おい真さんるんざアいるそ留
てあれやこまとれぐいつぐもそくおせ
るんまこりかるくくあるゆいまぐよ
もおりのやまアかへりんでおざんまよ。
ノウやこうさん 流 コウおめくまるいこと
とあるくてやらう。ゆでもくめてくおりのあ
くとあるゆ仕こくくくくあくとおくさる
くくまぐあるぐコリやアおめ妙たれぐる 図

ヨヤろんとうまく 作 ヨろちゃアまゑ ヤゞの〜
おめくさんとおゝ〜ヤ〜うまさぐ。ちらまうと
ゝ〜ておろんなん〜〜 流 ゝくまこゝアまゝ 作
ゝ。ちゝ茶と茶ゝ湯のゝくいれて。ちちゝ
のませろ〜。おゝくよゝる。コリゃアなゝ〜〜
ろろうきの墨焼よ 作 そんなこゝであろう
〜ちゝいし〜 流 ちゝくまゝとちゝまちまう
ゝくゝ 流 こゝゝちゝゝむゝうゝ。そのゝろう

コリゃアゝ又ゝ物ぐさ。サアゝくゝゝ出〜ちゃア
ゝ拒でもいろわくゝ客人でも。おゝくよをゝるゝ。
ゝまうのゝうでぐゝを 流 ゝゝておきうせ
ゝのん〜ゝ 作 ぐゝいゝ茶でおざんまく 流 朝
ゝくゝの椀と。ゝろゝゝ。おゝくよ〜ゝの 流 おきゃがれ
を 作 ゝ〜〜 作 そゝいゝてもゝまうこうさんの
むぐゝおゝ〜ろゝ。ゝゝいよぐまゝゝゝいを。
ゝゝぐろうゝゝぐ。ゝんのふゝくのでぐ。おざんゝゝゝ 稲

流 さるんがふりへのあさのゝ。九ちまろつか
でゆゝをいやァ志めへ。射よ抜奥さんも
まゝごさすんす兵ごらう 扇 そゝさ 座 いま
ふ。長助どんがゆゝつてきなんさ 流 例のあゝ
ぜんぜのひやゝゝらよ正でおちやづつごらう。但
作 紙蒲どころへごめご 扇 よゝ系でゐご
まへ大らだゆゝでもあるめへ。アリァよくあゝ
ゆゝこと 作 ゆゝやァ孫いけまでうるゞの

いゝてゐるいまのをゝ。ゝゝ。きこうこる
くてそれゝゝいろそぎゝひよなるゝこる
流 姐ひよなるゝこもまさまいおめへさ
ちやァ。弟のこゝまるゝ程けよ天狗か
志ゞゝ。猪のこゝろゝゝ。ゝだこのゝだゝ。
でも。ゝひゝよもゝ孫へゝゝそゝおゝのつゝ
作 ゝゝゝんゝゝておゝんなんぞゝゝそんる
りのゝ。ゝゝられいゝゝ 流 ゝゝ孫へゝゝさ。ゝも

おそろしい生物のごとき有様なるもの
と解釈よりへてねるなり。し猫のやまとやまと又
その口うちへ猫へくちるなんのそこゝ猫へ
山伏のあこまア。ぜんきうでぶつきれそいよ
りんぶ〳〵〳〵 竹 いろぶくよ。おそろぶうなれし
流 ちんなゝ口やをあよ般よをそうみろ 頭 コレ
夜でいつをそるよやら色猫へ 流 イヤるちゝア
ふるぢやをんるよりうつけをあうがうめへの 所

十六

すぐ古者べうなりんをそるザァ出なんし
トさうそうろうしろ
をがそうをびをそうて 流 おいゝんア猫へいゝやうぶ
のへ鼻へそひろげのしろをぢぶ。ゝ
のこもをそうゝいへんぶそうてア勝山へ
なりんぶをそうも猫へ弱さ夜の出れ
ちうべどんろよふぶ。ゝ出をうをちやとう

○第二章

客仁ニ いろぶけのつろうをて。ろほうとゆをどし。ゆく
目ぐさろておらゝんとゝきおとす。

あや猪 とのさのうえんやうあぐうよてらうこうこいうくれ
てらうぎゅうひうくとこだのくこうまことびんの
だくうこれうこくたこふさのうふよちくのわうぐんまげ
てわそうるたこふこうくとこ引きるとつきんで

仁 コウおいくこんいつまくで弱うのご 東 アレサ おはし
ナのれ 仁 のふ音ごぎ。サア おきてこうくトゆきうおと
されてこれとよこ
しちぐうつむれるよ
うこそわむう 仁 あきれてくこハトゆ円きんぞうこちち
てくこうこまおちいさるどんぐうよゆくこうねぐの
ゆくくいいなのでるゆうとのれてそぞのうくのようも 乙 きこへまつの
らんでうくまつさんのくこうこうこへおきくくのふ
おざういきぐ。にこさんまこれでおきんきと

十七

おあげなきういしくゆ 東 なんぐくトゆうくの目
くくあきてぎくくのくよおちて 東 そこくこおれなくく。
あくこうんぎくまでつうとうれ
そくて うくまつさんよ。おまうぐこうおざう
いきくこぐこうまつせくく 仁 こうくいくうぐ。
おいくくんでぐぶうくまつさんくむつきぐく
なくくこの 東 ナ井ゆぐもおこなくゆいさ
くくぐぜんぐのこくこアぐくこあゆきまくるん
くこぐつせくくゆきゆ。ゆくこうこ月のようこくて

いるぞおあくさんの家(きやく)じゃ。ろくもぐらそろのでも
こういうれちやあ。どうも内儀(ないぎ)のまめくも
きちらいせんそれよりあるいさんく。仕ごさん
こあ出来(ごりつしよ)おせなんきあくのこてうの。
ちんのこうやきそぐでいふうして孫こ
ちんでありいこのものとゆもはけあのあう
ようじやあおざんせんそれよりあるいさんが
うるしくいなんくこだろうでおめくさんの

夏へもへういさんうんでざんをとうぞうあ
おこちなんくこあ。むう家やあおざんせんが。
天ろさるらけくそんようけのあるこどあ
おさんせんうぞうぞこりやあ。はぎうゆ
て。今までのこをうようこうあきくして
おこんなんくおめくさんがりのこもいつて。お
こんるんせんくこあ。仕ごさんでうけでも
あるようまで取ごさんようあるはいまぞ

うまくいせんぎめへさうこゝまでさうく
まはもくもぢあつて。おそうぶんはもあり
ゆ〜じゃ。おぎんせんぺてくるちがそれ雑
はこさんまわれてあつて。義理
みるそんるこゝぢ。できんはりんじゃおざん
せん。ごめそうこゝひとそしておうんるれ。
でんるせいりんでもいこゝいまゝぺんま減ア
とり〜なんせんだろまあつもへまとうゝ。

まこゝもこゝるこゝぺくなんまこゝア
おもいしこゝぢまさうもらいておやまう
なんまこりのとこゝろばよくもいまれせん
ゆへそれでやまうんとてあげんこゝる。
それうりのぢこゝろをれ〜ぐうなんして。
まろまぢるまこゝいあ〜。ゑまひはうけて。せへ
こゝておうんなんまこゝう。今〜ゃアまん
ぎうみるおもいせんそれぎこゝてくま

こゝろとゆつさせてあきるんしてぞんるこ
とをもやんをもゆつぞうァぞんも。きれいせん
ぐ。なんでもおめ〳〵さんさんあてまるおせわり
るんせんにやや。よふおぞんをうつぞふそ
後生ごやうでおざりいをとうるゝぞうへきるこ
とゝそ。おこんなんをるへ 仁 ソりやあるる
うゝせゝちぐふ。おめ〳〵のようるりのと
うちありそ。弟のくゝぞんるゝとゝそ

はまるりのう あや それでもせんぞ。りふりのう
さんゝァ。のをいのあゝとあつまりいゝとぐ。
ゆゝぐをあり。おこ真さんのしろのわちのう。
るふうをゝそゝ。ひなれゝァなんぞんをへ。
化 アリやァ おこ真さんぐ。ぞ有をぐふをへるゝ
いりてあるふ。をもぐゝとあてそれろといふるの
ゝをふ。まんぞゝあり。ちゝぐりのをいうるるのを。
ふゝれをへつぞまつてもいゝをを行へる 書

それぞうさぁおざんせんぬ〜おさんが廊
下ふきりてゐなんして おめへさんとぞ〜り
とまちうとおもわれてこぺアリャアゐんでおざんを
仁 あれ茶屋ぞくぶ法ようの日げぶだけてゐる
うう日ろうつてき 東 ヲだうしいぞんまお
めへさんゆやァ おまこてぶあいうぷぜ日ろち
ぶ。んぼうりしやァおざんせんよ 仁 ナニだうァ
東 それよ又。女ちうんこんるかいいしいめつを

として日んせなんとうぷぶれでもまろうまと
日ろる。日ろもちぶ孫ぶへゆやァ。おめへさんふりへいち
ぶ〜ぶりへろうそうでもさせうざんを 仁
うんぶことのぺぱうへふあだこふでもろうちゆァ
はぶうう孫へ 東 それぶよりへざんをふこめうも
日ろう三孫へよりへる。ふ日いまろおこ〜こふまこう
ぶんをよ。そよるんぶ〜まこ。ふふそまろ人ぶ
おぶんせんうう。日ろちひうでぶあうしふして

このこいとと 仁 いってとをつかせぃちぢんげふ
つれごまとがきんぺてあきれる 悪 十二 そんなことと
いっぱいまとめのうかぜせこんなふおりかやっとそで
はるとらそ ぢっぢっぢ きあ おめへさんのかおうさんとおよびなん
まあう 孫 仁 そそかさのかきまってねやと あや
ちんふうへおうこのこざんまとおめへさんのおうさ
さんふるるおうこへさざめてうまーくあってて
おせかんせうのいそそんてへる 仁 おどんぶん

うこのようつこてふうる女よートんるとつ[illegible]
悪 おかでうなんとる。そんるるへとうれー
ぐもなんてかんよおあ えきんへ女こちし
でおざういとよ 仁 かんぶおめへぶちふちやよ
ってうってもこうちゃァ ゼひ 女房よきあく
ふややァかー孫へうぞかりてうんな
せへ トまうかりのきやうってとうって おいうんのひちいあてすもちこちにて よくやう
ぜ。ぶく 悪 トレまうておうんなんー ーいろ さんよ

それおきてきやくぶんの 男 だうしいのと ト引ぶんぶ
ぐいとりてきやう 仁 ひるたらうとしろうかうれて
とるよりぐいくいろとろう
うろうい 男 りゝんとうよぐぶぞおやく
さんのとんのいて。たあゝこにしてんうを
独へ 仁 やぐておいゝぶ肉へつれたとよるも
ひるも。うはいてめてたるゝやァゝ独へ
男 モレ おめへさんも。こにしてんあんゝトうはきる
ぐとたらうげ ひるうへあそぐい ラヤ おめへさんもよゝおまへいさん

ちそよ 仁 あめうとうて。田カゞ鬼色をおくすあ
う 男 それでもおめへさんと。女まもろとゝゝんな
へとゝぐうをいを 仁 おめへぶまゝ。おとゝぶぐ
さんぐ。子ぐものめへやせう 男 あうにしいのよ
ひざうろうれて〇はは内ちゃ
ありのさるつろう〇ヤのおとゝ 茶男 内あんはなされなを
仁 ぶれゝこるへらへゝ 男 ぐるこうあるゝ。おあま
うりてへうて。おせやはされまゝこ 仁 ちとの。
どのようなんぶの 男 ハイあひとうへ。ぷ子ぐぶの

色のきろくおか。おつれへ。ぎんざ〜お伴ども
ろくへきせわぐ。なんでも器のおし〜きろさ
ようろる。そしてひさふよ。ぱらくる豚のある
おぢんさる 仁 ラットよりく。そしてそちち
より 男 ちぐよいろふ〜ろて。ろくお伴ろこし
ぎ〜さ 仁 そんろ〜ろへ 男 ハイトせてりゃそ
ぎ〜きくさろる。くへばくさそもんろ。そぢわ
の而のぢんる手ろ。くへばぢろうめさろるやのおやぢ十吉 孝三 イ
おゆ〜しみせく 仁 ぢろろ〜おりろ〜ぢ。

トゆ〜んろう。もりてどこまる 吉 さろるちくおいぢなれ。トさぢ
十吉 ゆろ若長形おむろくよめろゆ〜ぢきのろ〜
おふくろさる。ぢおつ猿れぢ。それよ。ぢんる
さる。ぢ。因ゆ手ろ〜おりろ〜ゆさろて。おろこと
ろづ稲てぢろよ。めぢおゆ〜ろさる。おひろ
ぢ。おゆ。ぢ。ぢ。ぢ

ア手ハ、トひとゝろ〳〵おうげとゝ〳〵むろ
ゆへつよくもいるぞゝゝゝれそうよ 平 イヤニャヨ 仁こゝ
ゝへおかゞ完のゆ掘ぐゝ。ふゝゝまれているおゝゝ
ぐけで。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ

このうへどやアはたちまちおそろしさ〳〵（けものさんせうのこゑ）
（にたりのこゑ）（ち）ひとつおあぐんなれこ（ち）コレハ
そろ〳〵ぞうトヽ。サアナさるぐんぞそのあしつく。
きさるなハ月のなのんぐ（十）イヤきさるなハ月ぐ
なうぶう〳〵ろうトふれんれ（ち）サアおむろへぐ。ぶれて
きちやアむつうの（十）すづいてぐれ山ラトヽ
はちよいつよいおみでおろぐへ。附よりとうぐんる。
そろぐうりなぐ〳〵（に）おさく〳〵（十）ちやアのにれ

おあいと（ち）いろぐきややそう（十）はいろ〳〵あうけ
ゆくぐんどよんぐまふり（ち）コウあいろんおめぐあん
ぎゝきぐおりしろなう（ち）コウあいろんおめぐあん
まうぐうぞうにへぐうよぐひぐ〳〵ぐう。にこそぐいろ
までもぐうぐあハうるりまそる（ち）十二ねし
へ。ぐれよかにへぐうなんをぐうぐあんなん
まちうさ（ち）ぐれるあう。そりやアコろいの（に）
十二うそき（十）附るおさうづれハ（ち）ぐこさ〳〵
むやそうぐぐまの。ぐれさそへ（十）イヤおさく

平いろんいうふサンナ十ムノデノ平トウライロ
なんと。ナニヤラかぐ十イさのノ角兵ひごく
平なるく。狐化者ノ者ノ者ノ

さるのはちうりんさ。ぶるるこそさるぶ。
おぶぐ。ある。ぶるるもぶごろの悲歌と
いろ〜ろぐ。ちとび〜ありやせうぐ。ぶとさ
ろ〜ぶもぶとなろ〜ぶ。
あんだい。ぶるぐ。ぶ。ぶちろん。ぶるるぶ。
の絵中ぶあろ〜ぶるぶ。ぶうぶろ〜ん。ぶむ
ぶるぶ。ぶぶ。ぶぶ。ぶ。ぶ。

たらふくさしこうる〜つれぐちてぢてゆ〜 東 そこでぢやァ。ちんるものを
こうるちげさくさんのとんぺりてやいきやく
ちづらるーやる 東 アイーリトぐんぐ ちとぐぱうちたこー おやろのふことりらーびし
ちやさぐ 東 おめへさんぐ。ちやんへーこ 仁 ぐふ色
紙へ 東 それでぐ。ちおふろさんのおふことをん
ちやんーてらぐ。ぐてちおふぐちやんを 仁 ちやと
トいくーし汁てこそぐこと
のこるらーしやちうう 東 ちやんぐ。おころづらへの
ちいとぐもてこれいーこと 仁 さとりやァいーがい。

おめへよひとつぷおややすう入ぷがある 東 ちん
ぐんちへ 仁 十二伊ぐもわへとよ。おめへよさと
ちやーこ。屋ちん。さんとだのんぐことがあるかノ。
そこぐ。おやちやてちくのさ 東 伊ぐおこのこ
ちやんこ 仁 コリやァちーこ面目ぐもわへとぐべ。
ちひとこ汁 拠合のこ ちいとぐがあつて。ぢやきまう
さんこ 東 粗ぐ。ぢ程ぐがあつぬさぐ。それもちさ
ら直ふもぢちんーこ。屋ちん。さんちこ直る

とせて。ちらとさてこまりつてさ　あと　ラヤ　おめへさん
もせんとのこぐねけつちやアよ　かおざんをが。
そんなことを　松さんの　おくさんは　おもはれて。
私ら　新ハどこでこちいきそりやアごせれ
らア。そさてきのわへ　ゆくでさんところ。おこく
びりなんしてそんなもお法しておらん
なんせんきこア　おもいせんが。そんなこと
りのでもおさんぜん。そしてりやさーーめらなる

るもざんを　ロ　十二世　ぢろうのことき　あと　そんなこと　綿
あさんまでもそふいひきと。ふでもあるいきと
りのと。きんあとらのあきあきこあるあくくくくふ　庚松さんの
わうくんりふいくく　稲人といひまんーー　ロ　まさうくんま
りのと　彩んであるて。そふもいまあへ。又　あとが
やくくう　兵衛ようをかりさこて。おめへの　新のこて　稲へ
ともも　稲人ぢやア　稲人　ロ　りやア　おめへさんが。出てよお
かりまんきまこよ　おさんきが。庚松さんとおとこのこ

なんーこびけア。せくこんれが母ようけくをうーぷやでうく
せん。そーて人中も。そんうをとこをおきやだう白ん
をうーー。外出ぐをうん老やアおざんせんへ。おゆく
さんこそ。かーまうさんのここア。ぷーやうおかめてお
いでちんを見まとど。おこぐをとよでもきんて見ん
うんーー。いうそうのまうんおうこざんまと 仁 ナアニ
あのうごうそ。めうをうとこをきやだうりのうよー
きやだうこうそうも孫の祭。りふぐふもきうぐれく

ドレうをよーやせうトひぐのとぐれとおぐ
こーこのかくうん
むかいそ おわれ 仁 うへそよ。まーぷたうとこせこ 四
ア。おようーなんしートうしうとうもくまんぐうあい
ぐーくうけてきうこうまー
ぬうさうとをて
ぬうさーア 四 ぎれつてくのよ 仁 コウなんざく
初ちう毒 なんぐでもおざんせん 仁 あんくでもき
このう 四 アイー海あさんぐきなんれこざざよ
きいーこきんあうこうよはあいらんのうち
きくこはいうこうきこうて 四 きんううを

アノヨ　あらうさんがあろ　ちゆういを　仁さん1
おめよかうふをとうぞ　ぞよぞ　来ておくん
なん〜ヨサ　仁　ロつう　ゆうりやせうぞ　ぞふいろ
てくんる　ーえわがうてやとみるとき　はんうけどうてい　者　おめへさん
もか〜　まろさんのとんへお出なんをうぞ　私
もぞきんあろさんのとんへやうい　せう　仁　う〜
どーふもぞきてへ〜ところぞうてようまるア
ぐれへ　者　うまいなんをる　仁　ドレおいつもい

ろ〜ト　ぞろ〜ろて出てゆ　あやまるも　ぞへあとまのこれ
むらいよ　おろ〜ろ〜て　ぞんぞうひんしめ　ようきんをのの
あとまのに　ぞあろ〜ハるあて　ろうのう　ぞ田やへ出てゆく

○笠尻　三章

いづれのぞ　きろやぞへーヤ　者　かーとへおーことふあふさろの　ぞ
よろうぞ　ぞろ〜いせのなろ　ぞうろいぞ　ぞりそぬへ　ぞ　ぞ
し〜められて　ぞへのぞ　ぞへのひとりあろをでよ　ぞの　ぞ　ぞ
かろ〜　まろうぞ〜　きろハぞ　あんぞうろもうをろ〜ぞん
まろよびやうぞとりまり　ひろそろ〜　うハれ　よーと　ぞの
びあ〜　ろそとろう　仁　ろ〜　まろさんぞこまろ　者　仁さ

んりゝ。サアこなゝおぢ出なんゝ。【に】扨れうさんハ
【を】今流行さんとゝ。いけきゝの紀なんゝ。
おめゝさんも。さそろてゆゝ。ちつせゝ。
が。十二に三さんゝ。あやぎぬさんぐ。【を】なん
せんゝ。お出なんをろちやアおざんせん
と。ゝ。ぎゝそゝ。ゆゝ。ゝ。ぐゝゆゝこうゆう。
今おひゝて。きまいしと【に】扨れう
さんが。あいてゝ。ゝ。ゝてよゝ。ゝ。ゝめうざ

そゝてゝ。ゝ。ゝ。ゝよ。アノ源氏ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ぎぬゝ。中のゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
なんでも。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
でもゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。【に】おいゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

きんなんきあへぬおりへどもかうへそとぐよ

に さてへりへぎろさうてぐよきるりんぐ。

ろうろうまゐぬんまうろんどゃァ雑生ぐ 考

ヤおめへさんもよくあへせるりんぐねそよ

いろてもあやぎぬきねさんゆゃァぷんと味へりの

ぐぬるめへなんへろがぐろちちゆゃァ方方

ろうッぬめへておろんなんをぐろよとあも

いしろうそれでりきのりめとぐんとあげ

いとぐぬぐぐめ（ぬめへさんとあぐんやんへと

ろふろうとろちゆゆぬそれへうけのぬるとへんれへ

いありそふるりんろね 四 おめへもよくの源

いあ（ヤルウ）真さんぐぬぐぬぢておろちゆァ

ちるへく 考 ナニ 真さんへゆゃァ糸よりい

ぜんおりへさんでなくいちゆゃァ考松さんの

おき（き）ゆゃいろんせんよ。ぞけて（てぐ）彩（しやき）ろう（ろう）ゆゃ

いぬぞあいぐぞ。ぐちおめんへ 四 コウ まづ

一ぷくのまをてらんわへ（ヲ）おめくさんどうへ
こだこどおぐうまおぢなれこうへおぐうこう
あうちくいうてうぷいうこうでもおぐんなんー。
ぎれつてへ男ぐのトきをるとひろこうこう（ヲ）ポイーとちかる（ヲ）ヲ
のあうくへおんなぐ（ヲ）ちうこあうくうぞよ思
つておぢなんーぷ口弟のようるいどいをかう
ぎうくへちうのぷあうくへよれいをうくへのぷ理ちう
ぎうくあぎんまをすのどおめくさんのおんぢ弟

で思ふも仏ふもなういをあよ（ヲ）仏なる程
ぢうーくくまのあるぢ流ぐ（ヲ）ちまがあり
いをくうへるうぷちんぐうへよれいをような
うこういうこちんぐうなうこうてお
めくさんがれきうておぢなんを後絞さん
どぎれておうんへなんーのぷんのうぷむうるこ
とヤいをこうようるぷうこうでもおぐんせんうー。
ニヤるんぐうぷんをてうこうぷおうんなんせん弟ヤ。

ようにおぎんさそのうりごろやいろいろおき
まさうなんやあうぶたくおめくさんぶどんな
死よなんしてもひつちぶなるときやたた
くいのちもうてもおやぎねさんるおいるんさ
ようふあやアしてあげいまうそのおりて
おこんなんー仁ラやごうぎふてくるいとうあ
そんるまるおやぎねぶゆとろりてゆ
ぶぎとしもいるなんごうおめくのいまこ

ようう孫ふで国なるぶぶ。ひろいまめくとと
こうやうおめくさんまるぶれんおねぶくおぶんまこぶ。
こうめさあやアナいせんゴリやアおめくさんのおん
いのしもひんねさとどやア。それそひいちも
おうろうときめくせんるやアなくう孫くおこぶ
おぎういまを仁りやアなんのこうと宮なんぶも。
今ハやいせんでくどのゆておぎういまを仁そん
なるうてアさなくハあとのゆまおちようふう宮十二

まごめつさうなんさそじゃおざん
せんらうこゝゆるやかにこしてねこゝろちよ
たのしまておろんなんゝゝりへこのあへざ
ちでめておめへさんと一所よ。寿へしるがアノ孫。
いろそりよるぜざうれ[仁]なぜさゝ伽がる[を]アノ
なんざらりゝいよあもいとれいせんゝゝよく。
あんるようれゝくおもいしさちゃおざん
せんよ[仁]伽といつよ。孫つゝゝるとろわへ[を]

ヨとゝゝざゃよふちぎんさこゝゝせあや待さん
でなくゝつもゝゝヨとゝゝいめべぎれつてくのよト
ひゝゝゝゝるざゝこひとゝるるてよだを
ゝゝゝゝるおゝゝゝなゝざゝゝまゝゝ[ろ]ふりつゝ
ヨんきせまいぞゝゝだゝゝなんでんそもなき
けなゝゝこのまあおるごめいるよがるるあやこ張ハこゝろ
るゝゝぎゆのチとゝゝさゝゝゝ[あヨ]さてゝ松真
さゝゝきのよゝゝまざざんめゝゝぎゝゝゝゝ
さんよ今のこゝとゝつなんゝゝこゝいふもゝゝ
ふうんよむよゝくあいるんさゝゝのゝゝゝう云

このごくのらぐ
きぐ云れね あ上 ぎ〜きくよ へどこ〜ぷこうた〜
そくんどゃ〜ゃ〜ぷ〜 ぷんぐつれるん男でもぷれ
こぐいんぐぷらんと おりよ女ハたこ〜ぷ こりゃ とう
せぎこハやういまめく 作者 カタ〜〜〜 カタリ〜〜〜 春や作
さんぷるふ〜〜ぷ おめくのたっこちゃァ めつともぐ
ぐこっぐぐぐんめ〜〜ぐ〜ぷ〜ぷるさるこ ぷりんぐ
こうとうもぬ〜ぢく ぢるこ ハ後ハ角中で

あづうゆ〜こ 文屋も さんぐ今ハいはれ
ぬふ〜のぐこ〜こ ぐこ〜こも 昔も 後 屋敷
ゆもうもぐろちぐ 猫 ある ぷいるこ
さね 後 白ハさぬ ぐ ぐ ぷ それまでハ
ゆうこ あづうゆ〜こ チャ チャン

遊治郎
續後編 春日樓色唐紙